

## 積極的に音読をしよう！

先月、期末テスト対策授業で、改めて理社のワークの使い方を生徒に説明しました。「まず、テスト範囲になっているところをしっかりと覚える。根拠を見つけたら、関連付けたり、ときには語呂合わせを用いたりして覚える。その後、しっかりと覚えているかどうかを確認するため、ワークに取り組む。覚えていないのにワークに取り組むのは意味がない。」すると、生徒からこんな答えが返ってきました。「暗記が苦手、なかなか覚えられないんです。」

このように思っている生徒は多いと思います。そこで、誰にでも簡単にできて、しかも抜群の効果がある方法をお伝えします。

脳機能学者の川島隆太氏が、脳の活性化について面白い研究結果を発表しています。脳の頭前野は知的な活動をつかさどるところですが、ここが一番活発に働くのはどんなときかというところ、音読をするときだそうです。中学生になると、音読を恥ずかしくなったり面倒くさかったりして、ほとんどやらなくなってしまう。しかし、音読が子供の脳を一番活性化させるとい

うことが、最近の脳の研究によって、ようやくわかるようになりました。

また、音読をすると、自分の発した音が耳に入るので、体のあらゆるところを駆使しながら、記憶を定着させていくことができます。東大生に勉強法を聞くと、けっこう音読してきた人が多いようです。社会の教科書を音読して覚えたとか、英語は音読中心だったという人もいます。君たちはどうですか。今まで教科書を音読して覚えるという作業をほとんどしてこなかったのではないのでしょうか。

最近、脳の研究が進んで、実は音読が知識や記憶を定着させる近道だったということがわかってきました。音読は脳を活性化させるだけでなく、定着させるという意味でも非常に効果的です。

みなさん、本気で物事を覚えたい、知識を定着させたいと思っているなら、積極的に音読に取り組んでみましょう。確実に効果が表れると思います。

大事な部分にマーカーを引いたり、印を付けたりして、手を使いながら音読していくと、記憶の深さが増していきます。また、そこに書かれている内容を完璧に理解して、何回も音読をしていくうちに、不思議なことですが、体で何とな



くわかるようになります。ぜひ試してみてください。 (村田)

## 「要領よく」は通用しない

思い起こせば随分と要領よく生きてきたものである。自分の都合中心でやってきて、何とかなってしまった学生時代がそれだ。その時は先を考えず、今さえよければ(楽であれば)いいと思っていたように思える。しかし、この歳になると、その時の要領の良さが原因で多くの問題を抱えてしまったことが分かってくる。

当時は自分に全く厳しくなく、自由奔放に生きていた。その時は分からなかったが、今となっては後悔すること、度々である。努力することなく、何とかやってしまったが故に、どう努力するかを説明できないこともある。これは大変大きな問題だ。この点に関しては周りの仲間のおかげで助けられているが、ありがたいと思う反面、大変恥ずかしく、悔しい思いをしている。

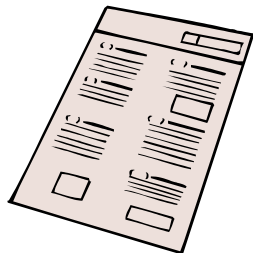
こんな自分も講師テスト(創学舎では毎週実施されるものと毎月実施されるものの2種類ある)を受けるようになってから、変化を実感できるようになった。自分にとっての適度の学習量が毎日の継続になっているのだ。これは今までの自分になかった変化である。結果、知識の

習得は以前と比べて格段に良くなり、達成感を得られるようになった。ダイエットや体質改善に成功した人の気持ちに似ているかもしれない。

継続は、言うのは易しいが、行うのが厄介だ。しかし、適量(個人差がある…単語5つや計算5題でもいいから決めよう)であれば毎日続けられ、しかも成果につながっていく。疑っているその君、まあ、騙されたと思って一ヶ月続けてみるのだ。ポイントは無理な量にしないこと。これが継続には本当に大切だ。但し、受験のような期日がある場合は適量を変える必要があることをお忘れ無く。

学生の時のこうした経験は大人になってから必ずものになる。これは間違いない。私のように、おじさんになっても行うことはできるが、まず苦勞するし、恥ずかしく悔しい思いをするのは確かだ。おじさん、おばさんになる前の若いうちに経験しておくことを強くお勧めする。

要領よくテスト前だけ学習しているその君、直前に慌てて詰め込もうとする知識ほど覚えていないものだ。そんなやり方では、将来、私のように苦勞してしまうぞ。大変だぞ。悪いことは言わない。さあ、今から変えよう。



# 今を生きる

今年も残すところあと少しとなり、センター試験や私立高校の受験スタートまで一カ月を切った。しかし、今年には未曾有の大震災が日本を襲い、その爪痕は今も日本各地に残されている。先日ニュースで、東日本大震災による影響から、子どもの学習に対する意欲の低下が問題になっていることを知った。それは、学習する環境の変化により、授業がうまく理解できないというアンケート結果であった。ある子どもたちは、通っていた学習塾、さらには学校なども流されてしまい、学習する場が失われ、その後の学習のリズムをうまく作ることができずにいた。またある子どもたちは、原発事故の影響から、避難先で新しい学校に通わなければならず、新しい生活に慣れるのに必死だった。そんな中でも、ニュースで伝えられているのは、今与えられている環境で精一杯努力しようとする子どもたちの姿だった。

では、私たちはどうであろうか。私たちの身近でも、建物が損傷したり、液状化などの問題、さらには原発事故による放射線の問題が起こっている。しかし、今までと変わらずに学校があり、塾にも通うことができる。習い事もすることができている。同じ空の下で、大震災により未だなお苦しんでいる人々がいることを思えば、

自分の置かれている環境・生活がどれほど貴重で感謝に値するものが見えてくると思う。この環境を支えてくれているのは、保護者の方など周りで自分のことを大切に思っていてくれる人々なのだ。けれども、日々の生活の中で、それらが当たり前になってしまい、感謝も忘れ、今なすべきことをおろそかにしていることも事実であろう。

塾に来る回数には生徒それぞれによって違う。週一回の生徒もいれば、毎日来ている生徒もいる。回数に関わらず、来る前の自分と帰ってからの自分を比較して、成長していることを体感できているだろうか。例えば、昨日まで知らなかった計算が次の日になったらできるようになっている。昨日まで知らなかった単語や漢字が書くことができ、読めるようになっていく。そんなことを感じられているだろうか。学ぶ楽しさとは、誰かに押しつけられて、嫌々課題をこなすのではなく、自ら成長することを望み、それに向かって努力して、達成されてこそ感じられるものである。精一杯努力することで、自分の変化に気づき、前へ進んでいる自分に自信がもてるようになる。学ぶことを最大限楽しむには、塾に来た時間を無駄にしないよう、一つの課題を丁寧にこなしていくことから始めてみよう。



(小林 英)

# 一枚の絵



●絵が好きである。購入はしないが、好きである。画廊にもよく足を運ぶ。有名な人の作品から、無名の人の作品までながめるのが好きである。展示会も好きである。習ったことはないの、自分では描けないが好きである。いろいろな人に見方も教わった。見るのが上手くなったか分からないが、いくつかのポイントは「なるほど」と思えて実行している。これからも、きっと、先達に教えを請いつつ見に行くだろう。とにかく絵が好きである。

●そんな私の心をとらえて離れない一枚の絵がある。何十回いやおそろく何百回以上も目にしたのに、作者の名すら知らない。時に夢に出てくる。夢に見るのはいつも同じ絵だ。

●百号(絵のサイズ)を超える大作である。暗い色調の油絵だ。やわらかなタッチ。でも色は相当塗りこんである。山村から下って町へ向かうのであろうか。母と男の子の二人連れが山道を歩く図である。男の子は母の背に負われている。母は、野良着で貧しそうな印象。子供は眠っている。そういえば、後に男の子の姉と思える人物が心配そうについてくる。

●この絵を私が好きだったのか分からない。とにかく、百回以上も見ざるをえなかった状況の中

で、完全に私の心に住みついてしまったのである。

●私には、恩人と呼べる人が何人かいるが、命の恩人である医者が出て(関先生、そこには通いっぱなしであった。生まれたときから病弱で、何度も意識をなくし、中3まで毎日の投薬は欠かせなかった。母に背負われ、手を引かれ、何度通ったことか。母子家庭で生活保護を受けながらの暮らし。祖父と弟を加えた四人の家族であった。「愛の壁」でも取り上げたが、生活はかなり苦しかった。貧乏人で病弱。社会から見れば、本当にじやまな家族であったらう。村の人の冷たい言葉の中で、母と祖父は、必死で私たちを支えた。子供心に難しいことは分かるはずもないが、二人が一生けん命生きて、私と弟を守ってくれていることは分かっていた。関医院は、そして関先生は、そういう私にとって、おそらくは私の家族にとって、希望の光のような存在であった。先生の顔と、やさしい声と柔らかない手と、暖かい力強い眼の光は私の支えであったのだ。

●先述した絵は、その関医院の待合室にかかっていたものである。私にとって、自分の子供時代と私の家族と関先生の思い出をつなぐ象徴のようなものであるらうか。あの絵に逢いたい。(小林 健)

### ▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。